

特異な政治体制のもとを不屈の闘志で生き抜いた天才

# ショスタコーヴィチ その4

## ＝ 協奏曲・弦楽四重奏曲・その他室内楽曲編 ＝

ショスタコーヴィチの時代、交響曲こそが体制に対する恭順や意思表示を示す、謂わば公的な顔としての役割を担っていたのは間違いない。

それに対し体制からの批判が届きにくかった弦楽四重奏曲こそが特に、彼の真実の内面の疼きを告発する絶好の手段となったと言われています。

他にも協奏曲、室内楽曲なども同様な事が言えるのではないかと思います。



20世紀音楽シリーズ「ショスタコーヴィチ編」の最終回は協奏曲・弦楽四重奏曲他を採り上げます。

主な演奏曲目 いずれも抜粋して披露いたします

弦楽四重奏曲 8番、15番より / ピアノ協奏曲 1番、2番より

ヴァイオリン協奏曲 1番、2番より / チェロ協奏曲 1番、2番より 他

時間の都合により、曲目を変更することがあります。



我孫子オーディオファンクラブ (AAFC)  
分科会へのご案内 (会員による自主講座)

日時 / 4月8日(日) 13:30~15:45

場所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 山本 一成 全10回予定

参加自由・入場無料

問い合わせ / 090-5422-5479 脇田 <http://www.aafc.jp/>